

第98回 卒業式を挙



東京代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼 中原 泉
編集兼 日 偶数月末日
発行日 1部10円
定 価 (〒951-8580)
編集室 新潟市中央区浜浦町1-8
☎ 025 (267) 1500



本学のシンボルマーク

両学部195名が巣立つ

卒業証書No.一九五五四号に

日本歯科大学第九十八回卒業式(学位記授与式)は、三月中旬両学部において挙行し、一九五五名の学士(歯学)を送りだした。あわせて日本歯科大学大学院第四十六回修了式が催され、十四名の博士(歯学)に学位記が授与された。また、東京短期大学と新潟短期大学の卒業式も挙行された。

第46回大学院修了式を併催

生命歯学部
生命歯学部の部は、三月十九日に生命歯学部富

士見ホールにおいて、大学院第四十六回修了式を併催して挙行された。定刻午前十時、司会の

鈴木洋一庶務部長が開式を宣した。まずクラス主任の高森等教授より、平成二十年卒業生一、二名の名が呼びあげられ、片桐飛鳥さんが代表として、中原泉学長より栄

えある卒業の証として学位記を授与された。つづいて学術優秀賞十五名、皆勤賞九名、精勤賞十五名、学術奨励賞八名、臨床実習優秀賞三名

つづいて在学学生を代表して第五学年の岡田真由子さんが先輩を送る送辞を述べ、卒業生を代表して海老澤俊一君、修了生を代表して戸来真由美さんが答辞を述べた。

つづいて学術優秀賞六名、皆勤賞九名、精勤賞四名、学術奨励賞十名、臨床実習優秀賞一名に對し賞状等が授与された。

ついで大学院新潟生命歯学研究科修了生四名の氏名が呼びあげられ、一人ひとりに研究の成果を証する博士(歯学)の学位記が授与された。

ついで中原学長と下村浩巳研究科長が告辞(別掲)を述べた。

ついで第三十八回歯科技工士専攻科修了生十名に修了証が授与された。

ついで下岡学長が告辞を述べ、小倉英夫新潟生命歯学部長が祝辞を述べた。

中医協歯科専門委員に 住友雅人生命歯学部長

中央社会保険協議会の歯科専門委員に、本学生命歯学部長の住友雅人教授が三月一日付で就任した。

中医協委員は支払い側七名、診療側七名、公益

六名の委員で組織されている。専門委員は、中医協で専門の事項を審議する必要があると認められたに厚生労働大臣から任命される。歯科からは、住友教授が選任された。

新潟生命歯学部の部は三月二十四日に新潟生命歯学部講堂において、大学院第四十六回卒業式を併催して挙行された。定刻午前十一時、大場憲業事務部長の司会により開式が宣せられた。

山口晃教授より、平成二十年卒業生七十三名の氏名が呼びあげられ、八木瑞希さんが代表して、中原学長より栄えある卒業の証として学位記を授与された。

あわせて、歯科衛生学科卒業生全員に東京都訪問介護員修了証明書が授与された。ついで小口学長が告辞を述べ、羽村章附属病院を述べ、新潟短期大学を述べ、小倉英夫新潟生命歯学部長が祝辞を述べた。



学士(歯学)の学位記を授与される卒業生代表(生命歯学部)



歯科医学の現状と未来を語る中原学長(新潟生命歯学部)

東京短期大学の卒業式は、三月十八日の午前十時より生命歯学部富士見ホールにおいて挙行された。

東京短期大学

ここで在学学生を代表して第五学年の河野道史君が先輩を送る送辞を述べ、卒業生を代表して八木瑞希さん、修了生を代表して高橋睦さんが答辞を述べた。

ついで中原学長と下村浩巳研究科長が告辞(別掲)を述べた。

受診率向上のため! デジタル・コミュニケーション・ブックス

お口爽やかに!そして健康に

— さわやかな息は歯科定期健診から —

八重垣 健 著
B5版 48頁
定価3,675円(本体3,500円+税)
わかば出版

患者さんにとって口臭治療は、口の中の改善にとどまりません。それは、健康増進につながります。自己管理と歯科定期健診を続けられれば、豊かな人生を送れます。対人関係に自信が持て、精神的にも肉体的にも健康になる事ができるのです。本書をご利用いただいて、患者さんの意識を改革し、歯科定期健診の大切さを理解してもらえば、受診率も向上し経営の安定化にも繋がります。待合室に是非!

デンタルブックセンター 〒112-0004 東京都文京区後楽1-1-10 日本生命ビル1F
株式会社 シエン社 TEL:03-3816-7818 FAX:03-3818-0837 http://www.shien.co.jp

ついで第三十八回歯科技工士専攻科修了生十名に修了証が授与された。

ついで下岡学長が告辞を述べ、小倉英夫新潟生命歯学部長が祝辞を述べた。

ついで下岡学長が告辞を述べ、小倉英夫新潟生命歯学部長が祝辞を述べた。

日本歯科大学院
THE NIPPON DENTAL UNIVERSITY

認定証
Certificate of Accreditation

本学は、財団法人日本同評価機構が定める大学高等教育評価機構の平成二十年大学機関別認証評価を受審していたが、評価を満了していることを認定され、三月に認定証が交付された。

同評価機構の調査報告書は公表されるが、本書は建学の精神と大学の使命・目的のもとに、教育・研究活動が実施されていることが高く評価された。

評価機構から交付された認定証

中原 泉 学長 卒業告辞 (要旨)



卒業告辞を述べる中原学長

卒業生諸君は dental focal infection(歯性病巣感染)という言葉は知らないと思う。病巣感染とは、限局性の慢性化膿性疾患が存在し、そこから産生される細菌、毒素、アレルギー等が、血行またはリンパ行によって、その病巣とは直接連絡のない遠隔の臓器に、一定の器質的組織的変化や機能的障害を呈することをいうと定義されていた。この原病巣が歯口腔にあるものを、歯性病巣感染と言った。

この病巣感染という概念は、昭和初期から歯口腔と全身疾患の関連性を解きあかす鍵として、医科歯科双方が究明すべき課題とされてきた。今ではこの用語は死語になっているが、近年にわかに、歯口腔疾患に起因する全身の臓器の病変が解明されるようになった。とりわけ、歯周病原性細菌の同定PCR法が確立され、菌種の解析とともに、歯周病原性細菌が各臓器に

及ぼす影響が明らかになってきた。また、糖尿病をはじめ、誤嚥性肺炎など肺疾患、心・脳血管障害、早産、低体重児症、腎臓疾患、骨そしょう症等との関連性が注目されている。すなわち口腔感染は、医科歯科にとって古くて新しいテーマなのだ。

最近の情報では、本年一月に開かれた日本成人病(生活習慣病)学会において、歯周病と心・脳血管疾患に罹るリスクは一・一九倍、特に六十五歳以下では一・四四倍になると報告され、また閉塞性動脈硬化症では、唾液と動脈壁から歯周病原菌(Pg, Tdなど)が九十パーセント以上も検出され、軽中等度の粥状病変部では五十パーセントであったと報告されている。

これは歯周病菌が、血小板という嫌気性環境に取り込まれることによって、生菌として全身に運ばれ、粥状硬化疾患部や

動脈瘤の形成に関与している可能性があることを示唆している。同成人病学会は、口腔細菌が胎児から高齢者まで幅広く全身に影響を及ぼしているとして、もう一度口の中を見直す良い機会であると結論している。

また、昨年十二月に開かれた日本糖尿病学会では、歯周病と糖尿病の予防に、同協会理事長が、歯周病は糖尿病の第六の合併症であるとし、糖尿病患者は健康者に比べて歯周病菌の量が、一・五倍、特に六十五歳以上では一・四四倍になると報告され、また閉塞性動脈硬化症では、唾液と動脈壁から歯周病原菌(Pg, Tdなど)が九十パーセント以上も検出され、軽中等度の粥状病変部では五十パーセントであったと報告されている。

このように歯口腔と全身疾患との関わりから、従来疎遠であり互いに無関係であった医科歯科に共通する目標とテーマが見出され、両者の接点が見出され、口から肛門まで約十メートルある消化器系の一連の臓器であることが理解されてきた。今後は、メタボ対策という観点から、医科と歯科が連携するとともに、歯科医師が生活習慣病の早期治療に積極的に関与していく必要があると強調されている。

糖尿病治療にあたっては、医科歯科連携により、まず歯科において定期検診と早期治療を行うことが重要である、と述べている。現在、糖尿病協会に登録している約五千人の歯科医師が、昨年十一月に開かれた日本歯周病学会では、糖尿病、メタボリックシンドロームと歯周病について報告されている。わが国では伸びつづける国民医療費を抑制するため、生活習慣病対策を第一に挙げ、メタボリックシンドロームの概念のもとに、糖尿病、肥満、高血圧、脂質異常症など、生活習慣病への取り組みを強力に推進している。

これまでに海外では、メタボでなくても歯周病であればインスリン抵抗性が高いこと、重症の歯周病では血糖コントロール不良のリスクが高まること、歯周病を治療すると血糖値が改善することが報告されている。

このようにメタボと歯周病の関連性を示唆するデータが集結しつつあり、今後は、メタボ対策という観点から、医科と歯科が連携するとともに、歯科医師が生活習慣病の早期治療に積極的に関与していく必要があると強調されている。

加えて、ごく最近の報告では、胃食道逆流症GERDが、胃酸により歯



自立した研究者となることを誓う修了生代表(生命歯学部)

て、高齢者社会にあって、今後ますます医科歯科の医療連携の必要性が求められていくだろう。

このことは、あくまで歯科医学は医学の一分野であり、歯科医療は医療の一領域であり、歯科医学・歯科医療は医学・医療と対峙する関係ではないことを示している。本来、医学は歯科医学を排除しては、一つの人体を対象とする学問として完全性を欠くこととなる。医療もまた歯科医療と乖離しては、人体という至上の生命体を対象とする医学行為として完全性を失うことになる。すなわち歯科医学は医学を補完する学問であり、歯科医療もまた医療を補完する学問であることを再認識すべきである。

歯周病はじめ瀰漫(びまん)性炎症と全身疾患のエビデンスが競って研究されている。それに伴って、歯口腔と全身疾患との関わりから、従来疎遠であり互いに無関係であった医科歯科に共通する目標とテーマが見出され、両者の接点が見出され、口から肛門まで約十メートルある消化器系の一連の臓器であることが理解されてきた。

大学院研究科長 修了告辞(要旨)

生命歯学研究科長 小林義典

わが国の大きな課題は激変した社会環境を背景に、生き甲斐にも配慮した健康長寿をいかに確保していくかにあるが、周知のように医療経済の破綻の状況や制度の不備、経済格差による健康格差、過度な都市化による睡眠障害、生活習慣病、ウイルスやアレルギー性疾患の増加、介護を要する超高齢者の急増、これらの医療連携の必要性など多くの重大な問題が立ちだかっている。

同じような状況にある欧米先進国では打開する緒として、紀元前のギリシア医学や東洋医学、ヨガ、自然療法、あるいは言いつくかによる神の泉での沐浴などを見直し、併用する統合医療が提唱され、先端医療機関ではすでに四十パーセント以上も導入され、功を奏している。わが国でも従来の専門科別の対応ではなく、関連する領域を結び付けて究明するネットワークメディスン、あるいは理学・工学を合体させた連携医学が世界へ発信され、大きな変革のうねりとなっている。

このような変革の必要性は、特に歯と歯にまつわる修復処置を主軸に続けてきた歯科医療について言えることであり、う蝕歯が二十三歳までの若い人で平均一本台にまで激減し、高齢者の喪失歯も明らかに減少している。一方、最近の研究では食の文化に基づいた歯ごたえのある食物の充分な咀嚼とそれに伴う唾液の分泌は、小児の脳を含めた成長発育の促進、成人のガンや脳梗塞のインシエターとなる活性酸素の消去、食物の発ガン物質の発ガン性やアレルギーの

減弱、生活習慣病の抑制、脳の活性化・リラクゼーション効果、運動機能やQOLの向上、ウイルスの直接攻撃などにつながる事が明らかにされている。

つまり前に述べた諸問題の根本的な解決は、生命の維持に不可欠な咀嚼機能を抜きにして考えられないことだ。言い換えれば咀嚼機能の回復とその維持を標榜する歯科は今後の健康、医療福祉で重大な役割を担わなくてはならないと言え、多くの部分で密接な連携や専門の一員として医療チームに参画する必要がある。そのためには咀嚼系の咀嚼システムとそれ

上手に食べられないのはどうして? お母さんが悩んでいることにズバリ答えます

上手に食べるために②

摂食指導で出会った子どもたち

田村文啓/著

■B5判・100頁・2色刷
■定価3,150円(本体3,000円+税5%)

- 子育ては大変。いろいろな悩みが次から次へと押し寄せてきます。多くは「成長」とともに解決されていくのですが、病気や障害があるとき、悩みは深刻です。
- 著者は、摂食外来や訪問している施設、病院で、そうした子どものお母さんや養育者と接するなかで、食べること、話すことについての悩みに答えながら、大きな愛情や知恵にふれ、これらを多くの方に知ってほしいと考えて執筆したのが本書です。
- どんなふうに子どもと接し、どんな指導をするとういかが理解しやすいよう、25の事例と15のQ&Aの「読み物」にまとめました。

「口は健康の門」「口は全身の入口」という古くから平平凡凡な言葉は、今も脈々と生きています。卒業生諸君は、これからの臨君の健康を祈って、学長告辞とする。

において診療にあたるよう期待する。おわりに、本学第九十八回卒業生という永久背番号をつけて、歯科界の荒波に乗りだしていただくために、歯と口の健康を祈って、学長告辞とする。

に新しい生命科学の本格的な勉強が必要なのは言うまでもない。もちろん健全な咀嚼機能を営むためには基盤となる健全な咬合、要するに歯と口腔が必要だ。前に述べたさまざまな疾患は、口腔感覚に悪影響を及ぼす因子、例えば微細かつ持続的な咬合問題が関与することも明らかにされているので、高度な歯科専門技術も必要となるだろう。

修了生諸君は今日、自立的な研究能力とその学識を備えた将来を背負う候補生としてスタートラインに立たれたので、学則に明記されているように歯科医学を通して社会に寄与貢献するというフィロソフィーを十分認識し、社会から必要とされる研究者、教育者、あるいは先進的な歯科医療を遂行できる高度専門医の、それぞれのリーダーとして活躍されるよう自信をもって努力邁進することを切に期待し、告辞とする。

このように歯口腔と全身疾患との関わりから、従来疎遠であり互いに無関係であった医科歯科に共通する目標とテーマが見出され、両者の接点が見出され、口から肛門まで約十メートルある消化器系の一連の臓器であることが理解されてきた。今後は、メタボ対策という観点から、医科と歯科が連携するとともに、歯科医師が生活習慣病の早期治療に積極的に関与していく必要があると強調されている。

新潟生命歯学研究科長

下村浩巳

本学から旅立つ諸君に二つのことをお話ししたい。研究や発明において独創性が最も重要であることは誰もが認めている。少し古いデータだが、七百名のアメリカの発明家に、発明によってどのような性質が必要かを質問した結果がある。八十七パーセントの発明家が努力と回答し、次いで創造力、知的記憶力、事務的能力等々が続く。つまり発明発見は努力の賜物であるということだ。私たち日本人は努力という言葉が好きで、大相撲で出た不撓不屈、堅忍不拔、忍耐、勤勉などその時々々に使用している。

基礎的学力が違っているためにその経験の内容も違ってくる。経験の内容が基礎的知識であり、経験の仕方とは経験の生かし方、あるいは知識を足場としての考え方のことだろう。下村先生の場合で見る、名古屋大学の平田義正教授の研究室でウミホタルからルシフェリンという蛍光化合物の精製単離に成功し、特に蛍光を発するためにカルシウムイオンが必須であるという経験が大変役に立ったという。

新しいものをつくり出す場合、無意識のうち正しい選択をする力が働く、すなわち感じる力が必要だとか、その他多様な要素が求められるが、君たちにとっては努力と基礎的知識のバラ

新しいものをつくり出す場合、無意識のうち正しい選択をする力が働く、すなわち感じる力が必要だとか、その他多様な要素が求められるが、君たちにとっては努力と基礎的知識のバラ

東京短大 卒業告辞

学長告辞

東京短期大学学長 小口春久

諸君が主役として活躍する二十一世紀は、困難な問題が山積するものと懸念されている。これらを解決するには本短期大学で学んだことを思い起こし、今後の活用をよく考え、即実行に移していかななくてはならない。

これからの時代は学歴社会ではなく、学習歴社会になると言われており、どの大学を卒業したかではなく、何を身につけた

かが厳しく問われる。諸君は掛けがえのない若い日々を都心には珍しい自然環境に恵まれた学舎と人間性溢れる、情緒豊かな教職員のもとで学んだ、この情操こそが諸君の人生に計り知れない影響を与えている。本日記念すべき日にあたり、私は先人の言葉を送りたい。ルソーはエミールの中で、「人生は短い。なんて速やかに我々の地上を過ぎていくのだらう。人生の最初の四分の一はその使い道もわからないうちに過ぎ去



祝福の拍手に送られて退場する卒業生たち(新潟生命歯学部)

君、本学に学んだことを誇りに、積極的に自分の未来を設計し、人類の運命を開拓していくことを心から希望して、はなむけの言葉とする。

祝辞

羽村 章 附属病院長

君たちは学びの場を終わり、これから社会に出ていく。先人たちはいろいろな言葉を残している。社会は厳しいぞ負けるな、社会の荒波に揉まれて自分を見失うな、社会に出たら勝ち続ける、...

新潟短大 卒業告辞

学長告辞

新潟短期大学学長 下岡正八

諸君が巣立ったあとに新しい知識を吸収したいと思うとき、新潟短期大学で研修できる準備を着々と進めている。そのときは、大いに利用してもらいたい。わが国の教育は、知識は吸収するもの、技術は理解するもの、という理念で行われている。

これは全くの誤りだ。知識というのは何か目標、目的をもってそれをなし遂げるための手段であり、使えない知識を幾ら持っているても何の意味もない。また技術は頭で理解するのではなく体が覚える、だから忘れない

の。人間には機械のように同じものを作ることではない。結果は一つであってもそこに到達する道は幾らでもある。ものに至る軌道は事前に一本の道が決まっているわけではない。皆さん一人一人に固有の動き、その動きの中で独自に解決を探し、発見している。

祝辞 小倉英夫新潟生命歯学部学長 現在日本を含めた世界上の国で大きな不況が起こっている。四年制大学の卒業生の中には、かなり多くの人たちが就職浪人になると聞いている。それに比べて短期大学の卒業生は進路や就職が

本学の建学の精神、自主独立という言葉や言葉をさらけだしていき、医療、歯科医療は刻々と大きく進歩している。今までは短大や新潟生命歯学部で教えてもらえたという状況にあった。これからは一個の社会人、医療人として皆さんが自分自身で求めて学習になる。自主独立という建学の精神を是非とも忘れず、一人一人が医療人として社会に貢献してもらいたい。



医療職の心構えを述べる小口学長(東京短大)



下岡学長から学位記を手渡される(新潟短大)

信頼し通院してくれる患者のために

歯科医の本分

38歳の歯科医誕生ものがたり

30歳で中学教師をやめ、歯科大学に入り「本当にこれでいいのか」と自問しつつ、歯科医になったが... 「歯科医になるまで」、そして「歯科医になってから」感じた「歯科医の本分」とは、私小説、エッセイ風の文章で、歯科学生、歯科医師は勿論、一般の方にも歯科医の現実を理解していただけます。

井上公秀 著
 ■四六判・160頁
 ■定価1,680円 (本体1,600円+税)
 ISBN978-4-903553-20-7

医学情報社 <http://www.dentaltoday.co.jp>
 〒113-0033 東京都文京区本郷1-4-6 TEL03-5684-6811 FAX03-5634-6812

平成二十一年度卒業生



大学院

第46回修了生

日本歯科大学大学院第四十六回修了生(生命歯

- 学(小口春久学長)の校舎改修工事に伴い、二月十七日に安全祈願祭を挙

東京短大、改修工事安全祈願祭を挙

このたびの短大校舎改修工事は、一階から六階までの間仕切り変更による電気、給排水、空調設備等の更新工事で、工期は一年余、明年五月の竣工を予定している。



改修工事の安全を祈願する中原理事長

学(小口春久学長)の校舎改修工事に伴い、二月十七日に安全祈願祭を挙

- 行した。式には、中原泉理事長、小口短大学長はじめ本学関係者と工事関係者が参列し、工事の安全を祈願した。

- 理学 藤田和也
矯正学 土持航
口腔外科学 富永徳子
解剖学 I 野口顕造
保存学 小澤稔史
日本歯科大学大学院第四十六回修了生(新潟生命歯学研究所)四名は次の通り。
機能性咬合治療学 高橋睦
全身関連臨床検査学 木村勝年
全身関連臨床検査学 豊島紘一郎
口腔全身機能管理学 山田希

- 学位記授与者
(甲第九六三号まで)
論文提出による学位記授与者四名は、次の通り。
補綴学 II 廣田吉明

- 総合診療科 白野美和
補綴学 I 太田桂資
補綴学 II 石井広信
(乙二四六号まで)
日本歯科大学第九十八回卒業生(新潟生命歯学部)七十三名は、次の通り。
赤坂定威 浅田伊織
荒川いつか 荒木拓道
五十嵐健輔 五嵐蓉介
池田雄介 石黒仁江
井田有希子 伊藤育代
上田昌和 遠藤紗織
大里有佳莉 大畑和樹
岡 秀行 越智麻有
笠島 愛 笠間洋樹
風間未来 加藤晃茂
加藤紗也 加藤雅也
金子広美 玄番千夏子
小出勝義 近藤大輔
今野 歩 佐藤研人
佐藤宏紀 清水 豊
城下 遥 城下 優
瀨下博嗣 高桑明子
高橋浩信 武井 徹
田中忠理 筒井 廉
坪井佐知 富田尊志
中村政孝 永沼佳納
西田孝二郎 島山佳大
林 伴暁 番場純子
平出隼人 古館 彩
穂積光太郎 益田将裕
松島 瞳 宮本 舞
八木瑞希 山口俊太郎
山口晴香 山口正貴
山田雅春 八本貴晃
吉田堯史 渡邊 充

- 日本歯科大学第九十八回卒業生(生命歯学部)二三名は、次の通り。
秋本琢磨 秋山沙絵子
秋山浩之 足利正法
渥美元成 天池舞美
荒川英雄 有泉雅俊
生駒久美子 泉 健人
磯田浩太 井田美菜子
犬伏正和 岩井 謙
岩浅侑子 内田祐輔
内山恵理 江田 琢
榎本景江 海老澤俊一
蝦原賀子 大木万来
大沢雄太 大島慎也
大塚絵里佳 大成慎一郎
岡田真和 岡本祐幸
片桐飛鳥 壁谷 信
川口なつみ 川端紗世
川畑妙美 北 梢

- 木下裕也 草本美歩
工藤奈津子 窪田 悠
栗城宏修 黒木 梢
小池恭子 小谷理紗
小西一彦 駒津萌乃
齋藤沙耶 齋藤達磨
阪 翔太 坂本安繁
阪内杏子 笹川 碧
笹本忠資 島寄由佳
島野真沙 清水恒太郎
杉山佳菜子 助川顕士
鈴木敏浩 関西崇史
関根和幸 相馬智也
高井雄太 立山朝彦
田中秀明 田中昌栄
寺田裕陽 土江雄治朗
富岡弥一郎 中川ゆかり
西田太郎 橋口隼人
初田和史 林 明音
深代真以 藤津 圭
本庄 桂 前野雅彦
松田 玄 松野和敬
丸山裕子 三浦綾子
宮坂綾乃 宮崎佳代子
宮下牧子 村上正治
森川亜耶 諸井明徳
山口知孝 山下龍太郎
山内良太 山本麻里紗
横山真也 吉田 崇
吉田健留 吉野 基
和田東洋磨 和田竜亮
渡邊裕介 巨理 瑛
奥村 曜 高野梨沙
三島彰太 山本健太郎
岩崎太郎 今井麻美子
林 直輝 秋庭 俊
井口 将 太津 敬
笠井雄太 権藤ひここ
繁里有希 鈴木眞希
高橋 徹 林 幹智
原 麻衣子 昼川仁美
藤田英輔 山田裕介
齋藤 諭 高野拓哉
溝口泰史 山崎将人

- ☆学術優秀賞受賞者☆
☆皆勤賞受賞者☆
☆精勤賞受賞者☆
☆臨床実習優秀賞受賞者☆
☆臨床実習優秀賞受賞者☆
大島慎也 相馬智也

- 学術奨励生(二一名は、次の通り。
(生命歯学部)
一年 II 上井達絵 澤野和生
二年 II 小口莉奈 横井 希
平井菜緒子 桜井佳美
平賀智豊 肥田智香子
黄田華恵 伊豆麻未
森田真央香 小松勇輝
小笠原亜樹 倉治竜太郎
辺見卓男 小口莉代
岡本京子 秋 麻里絵

平成二十一年度日本歯科大学学術奨励生(二一名は、次の通り。)

平成21年度歯学会大会のお知らせ
平成21年度日本歯科大学歯学会大会を下記の通り開催いたします。皆様の多数のご参加をお待ちしております。
◇日時:平成21年6月6日(土) 11:00~17:00
◇場所:新潟生命歯学部講堂
◎メインテーマ「ポスト創立100年 次世代を拓く」
●プログラム●
11:00~12:00 創立100周年記念グラント研究報告Part 1 「歯科再生医学・医療の萌芽」
14:10~15:10 特別講演 「新型インフルエンザパンデミックに備えて」 新潟大学大学院医歯学総合研究科国際感染医学講座 公衆衛生学分野教授 鈴木 宏 先生
15:40~17:00 創立100周年記念グラント研究報告Part 2 「歯科再生医療へのシステム構築と人材育成のための 医歯工融合プロジェクト」志向とその道程
大会長 土川 幸三
新潟生命歯学部口腔外科学講座
※お問合せは準備委員長 山口 晃(日本歯科大学新潟病院口腔外科)
TEL 025(267)1500 内線231 E-mail:akira@ngt.ndu.ac.jp

患者さんとの楽しい関係を築く、スタッフが輝く、明るい未来の歯科再建ガイド
Welcome to Dental Office
よみがえれ! 歯科医院
意識改革・納得診療・経営転換
高橋英登/著
B5判・104頁・2色刷
定価3,360円(本体3,200円+税5%)
●厳冬期にあるといわれている歯科界、次代を担う若い人に元気がないといわれる歯科界において、本書は、どうすれば明るい未来の光を差し入れることができ、やりがいのある歯科医療を再建できるのか、渾身の力をふりしぼって解決策を示した一冊です。
●保険診療を再考して、最善・最良の歯科治療を提供するにはどうすべきなのかについて答えます。
http://www.ishiyaku.co.jp/
西書館出版株式会社